

秋 空 の も と

1年生から6年生まで、皆堂々と胸を張って入場行進。
 秋たけなわ。小春日和の日曜日はどここのグラウンドも運動会の真最中。
 日頃、遊び場もなく、もやしっこと呼ばれる都会の子供達。
 でも、この日ばかりは思いきりグラウンドを駆け廻ります。はしごや綱をくぐる障害物競走、番号を合わせて二人三脚、ダルマをかついで運んだり、竹の棒をひっぱりあったり……。
 皆一生懸命。声援に声を張りあげ、どの顔も明かるくほがらか。東京四谷の学習院初等科の運動会。
 今年の春、1年生になられた礼宮さまも70mのかけっこに出場。練習の時は、いつも1等とか今日は、お友達
 の走る姿を気にされたためか2等。
 1年生全員のマスケーム。グラウンドに色とりどりの花を咲かせました。秋空のもと、楽しい運動会の1日でした。

巨 人 8 連 覇

「投手生命をかけて投げ抜く」と悲愴な決意で試合に臨む阪神・村山監督、「今日で決めます」と短いパイプをくわえた余裕たっぷりの巨人・川上監督。
 10月7日、優勝へのマジックナンバー2をかけて甲子園球場で行なわれた巨人対阪神の試合は阪神が予想通り村山、一方巨人が高橋一の先発でスタートしました。
 巨人は初回、ヒットで出塁した高田を一塁において正がライトスタンドへ豪快な46号、続く長島もレフトスタンドへ26号とO・Nの鮮やかなアベック・ホームーで優勝へ大きく近づきます。阪神も2回、和田のホームランを足がかりに反撃のチャンスをねらいますが、高橋一の好投の前にもう一つ決定打が出ません。
 最終回阪神は和田がヒットで出塁、しかし代打の山尾はあえなく三振に終わり、巨人のセ・リーグV8が決まりました。
 巨人選手めがけてスタンドからワッとなだれ込んだ2000人のファンに優勝の胴上げ、インタビューは中止、巨人は輝く8連覇を達成したものの長いペナントレースのフィナーレを飾る胴上げシーンのない寂しい優勝決定の試合となりました。